

三河方言くりん／いん＞の三河地域出身者における使用実態について

—「エセ方言」は地域に流入しているのか—

（『言語の研究』9号）
2021年9月

小林 園佳

1. はじめに

愛知県三河地域から静岡県浜名湖以西にかけての方言にくりん／いん＞がある（以下、「三河方言くりん／いん＞」）。この方言は共通語でいう「見な（よ）」「書きな（よ）」のような軽い命令の意味であり、「見りん（よ）」「書きん（よ）」という用法となる。伝統的な方言文法としては、「見る」「寝る」などの五段活用動詞以外の動詞の連用形には「りん」がついて「見りん」「寝りん」という語形になり、「書く」「読む」などの五段活用動詞の連用形（語幹がイ段）には「ん」がつき「書きん」「読みん」という語形になる。

しかし、近年、以下に挙げるような伝統的な方言文法から逸脱した語形（下線箇所）での使用がインターネット上で散見されるようになってきた。

「最近三河弁の～りんの口癖が抜けないです。プームなんでしょうか。そうしりん、食べりん、やりりんと言ってます。」

（えとせとら 2018年8月9日 <http://etosetorarara.blogspot.com/2018/08/blog-post.html>）

「やる」は五段活用動詞であることから、伝統的な方言文法に則った語形は「やりん」である。しかし上に示した「やりりん」のように、「りん」を接尾語化させて五段活用動詞に接続させてしまう語形が出てきていることがWeb検索などによって観察されるのである。

上記当該例に関しては、ブログ執筆者のプロフィールに書かれている場所が瀬戸市（尾張地域）であり、「最近三河弁の～りんの口癖が抜けない」という記述があることから、三河方言くりん／いん＞非ネイティブの使用例と思われる。だが、三宅（2019）より近世期の時点で三河地域の雑俳でら抜き言葉が登場していた点、豊橋市立商業学校（1932）にて既に方言としての「ら抜き言葉」や「れ足す言葉」に関する言及がある点から文法に揺らぎが生じやすいと想定される当該地域の方言ネイティブ間でも、三河方言くりん／いん＞の伝統的な方言文法から逸脱した用法が広まり、伝統的な方言文法に揺らぎが生じているのではないかと三河方言ネイティブである筆者は危機感を抱いた。

田中（2011）は、地域本来の方言使用を「リアル方言」、地域の方言を強調した変種を「ジモ方言」、非生育地域の仮想性の高いヴァーチャル方言を「ニセ方言」として現在の方言使用を三

層構造で示している。

本稿では、伝統的な方言文法への誤解によって産出された当該方言であるかのようにみえる表現や、伝統的な方言文法から逸脱した表現について、これを「エセ方言」と称することとする。言語形成期を三河地域で過ごした三河方言ネイティブの<りん／i ん>の使用状況を明らかにするとともに、伝統的な方言文法からの逸脱の実態について明らかにし、考察することを目的とする。

2. 先行研究

2.1 <りん／i ん>の歴史について

豊橋市立商業学校（1932）では、<りん／i ん>について以下のように記述されている。

オ+動詞連用形+ンサイ オ読ミンサイ +リンサイ オ寝リンサイ、オ見リンサイ……
敬語の動詞の命令形「なさい」が母音脱落によりて「ンサイ」となれるもの、「リンサイ」は前条の如く「になさい」或は、「になりなされ」等の如きより変化せるものならむ

オ+動詞連用形+ンヤレ これは前の「サイ」に代るに動詞「行（ヤ）る」の命令形を添へたもの オ読ミンヤレ、オ書キンヤレ、オ見リンヤレ……「リ」の添はること前条と同一

オ+動詞連用形+ン 前述よりも稍敬意を失へるもの……オ読ミン（お読みな）オ寝リン（お寝な）オ見リン（お見な）これは終助詞「な」の母音脱落によるものにして宛も、「な」が「なさい」より変化せる如く、この「ン」も「ンサイ」より省略されたるものなるべし

吉川・山口（1972）では、この豊橋市立商業学校（1932）に、「リンサイのりは、1段動詞の4段化した連用形とかんがえられる。オ書キ・オ見リという命令形もある。」と補足している。

江端（2013）では、動詞の活用形に関係なく（□）+i+Nで（ご～なさい）の意味が生産されるとして、「書きん、帰りん、お出でん、待ちん、食べん、蹴りん、見りん」などが具体例として挙げられている。そして「見る」という動詞については、「ミン」という形でも五段化した「ミリン」という形でも言われていると指摘している。江端（2013）で挙げられている例は下記の通りである。

ki:te kite miN。（聞いてきてみん。）（中年女子→中年女子）1968.7.16 愛知県蒲郡市西浦町北稲里

kawazu. ki:temiriN。（蛙.聞いてみりん。）（老男→筆者）1965.4.6 愛知県渥美郡田原町波瀬（現田原市）

ただし、この意味での「ミン」は、見ないという意味での「見ん」という言い方と重なってしまうためか、上記の例のような補助動詞としての機能でしか筆者は聞いたことはない（ex.「（相手に対して）やってみんよ」）。「食べん」も同様の理由でおそらく聞いたことはないはずだが、祖父母の家に行くと、よく祖母がお菓子を持ってきて「お食べん」と言うように、「お」が付いた形では聞いたことがある。

また国立国語研究所（1957）では、岡崎市（愛知県三河地方にある市）方言における敬語には、

お書きん（お書きにならない）式の敬語形式があり、この敬語形式は長野県南部にも分布しているという記述がある。この「お書きん（お書きにならない）式」について吉川・山口（1972）では、豊橋地方では打消と丁寧な命令は同形であり、意味区別はアクセントによるものであると示している。吉川は豊橋市出身、山田は静岡県新居町（現湖西市）出身であるため、打消と丁寧な命令が同形であるというのであればそれは事実であるとも考えられる。しかし、吉川・山口（1972）の打消の項目では、「書く」と同様の五段動詞「行く」「買う」「知る」の打消現在形（共通語では「行かない」「買わない」「知らない」）はそれぞれ、「ik-an（行かん）」、「kaw-an（買わん）」、「sir-an（知らん）」、打消過去形（共通語では「行かなかった」「買わなかった」「知らなかった」）も「ik-anannda（行かなんだ）」「kaw-anannda（買わなんだ）」「sir-anannda（知らなんだ）」と書かれており、「ik-in（行きん）」のようなイ段に否定辞が接続するというような記述はない。そのため、「お書きん」で打消と丁寧な命令の両方を表したということについては疑問が残る部分ではある。

以上の先行研究によれば、<りん／いん>の成立過程と文法は以下のとおりである。

【成立過程】

・「お＋動詞連用形＋なさい」>「お＋動詞連用形＋んさい」>「お＋動詞連用形＋ん」>「動詞連用形＋ん」

【文法】

- ・一段活用・カ行変格活用・サ行変格活用動詞連用形＋五段化連用形語尾「り」＋ん
- ・五段活用動詞連用形＋ん

文法に関して具体例を挙げると、下一段活用動詞「食べる」の場合は、連用形「食べ」＋五段化連用形語尾「り」＋ん⇒「食べりん」となり、サ行変格活用動詞「する」の場合は、連用形「し」＋五段化連用形語尾「り」＋ん⇒「しりん」となる。ただし、カ行変格活用動詞「来る」については、未然形「来（こ）」＋五段化連用形語尾「り」＋ん⇒「来（こ）りん」が優勢と思われ、サ行変格活用「する」についても未然形「せ」に接続するパターンへの揺れがあることが伺える（4.2.2参照）。五段活用動詞「書く」の場合は、連用形「書き」＋ん⇒「書きん」となり、五段活用動詞「帰る」の場合は、連用形「帰り」＋ん⇒「帰りん」となる。

2.2 現代の<りん／いん>について

山田（2007a）では、「～りん」という項目で「～なさい（軽い促し）」という意味を持つという記述があり、吉川・山口（1972）と同様の当該地域での一段動詞の五段化について言及している。

辻（2012）では愛知県三河地域に位置する岡崎市における敬語の方言型使用の現代までの経年変化が示されており、平塚他（2012）では静岡県湖西市を含めた3地域の若年層の命令形の使用範囲について対照されている。

3. 目的と調査方法

先行研究を踏まえ、<りん／いん>の現時点における使用実態を明らかにすることを目的とする。具体的には<りん／いん>において、伝統的な方言文法形式である「書きん」から「書きりん」となるように、五段動詞に「ん」ではなく「りん」が接続してしまうという、伝統的な方言文法形式から逸脱した形態上の変化が生じているのではないかという仮説のもと調査を進める。<りん／いん>においてこのような変化が生じていると考えた理由は二点である。一つはこれまでの当該地域の歴史において、先述の「ら抜き言葉」や「れ足す言葉」の例、一段動詞の五段化が生じたこと、敬語の「お+動詞連用形+なさい」から<りん／いん>となる変化が生じたことなどから、形態的な変化が当該地域において生じやすいと想定され、<りん／いん>にも何らかの変化が生じている可能性があると考えたためである。もう一つは、田中（2011）で言及されているように、ある方言が使用される際には、「方言コスプレ」として正確さが要求されない傾向があることから、当該地域外で「書きりん」のような伝統的な方言文法から逸脱した語形式がなされるうちに、そのような「エセ方言」が当該地域に逆流入した可能性があると考えたためである。

調査方法としては、まず地方会議録において<りん／いん>で想定される語幹+んの組み合わせ（いん・きん・ぎん・しん・ちん・にん・びん・みん・りん）で検索をかけ、地方議会における当該方言の使用状況及び方言ネイティブにおいて誤用である「五段動詞+りん」の発生状況の調査を行った。この際該当する語のうち固有名詞となっているもの（例：路面電車やコミュニティバスの運行情報がリアルタイムでわかるシステム「のってみりん」など）は件数からは除いた。

次に当該地域で言語形成期を過ごした人を対象として、<りん／いん>の使用状況を、Google フォームで調査した（調査期間2020年8月1日～2020年8月13日）。当方言において伝統的なもの（例「書きん」）と伝統的な方言文法から逸脱したもの（例「書きりん」）とをランダムにした設問にして、「言ったことがある」（以下表では①）「言ったことはないが聞いたことはある」（以下表では②）「言ったことも聞いたこともない」（以下表では③）の3つの選択肢から当てはまるものを選んでもらった。荻野（2001）を参考に、言語形成期の3歳から15歳の間に「愛知県三河地域及び静岡県湖西市」の地域に住んでいた期間が7年以上の回答者を有効とした。有効回答者数は88名で、年齢別の回答者数は、10代 3名 20代 43名 30代 1名 40代 23名 50代15名 60代 2名 70代 1名である。

アンケートの結果を受け、「エセ方言」の使用が想定していたよりも少なく、「エセ方言」を使用することとなった背景が不明瞭である点から、Web検索での調査、コーパスでの調査を行った。Web検索での調査で使用した検索エンジンはGoogle、調査語はアンケート調査の設問に用いた、伝統的な方言文法から逸脱した語形の語全て（以下参照）とその他数語とした。

書きりん（かきりん、書きリン、かきリン）・選びりん（えらびりん、選びリン、えらびりん）・行きりん（いきりん、行きリン、いきリン）・見りりん（みりりん、見りリン）・買いりん（かいりん、買いリン、かいリン）・待ちりん（まちりん、待ちリン、まちリン）・話（は）し

りん（はなしりん、話しリン、はなしリン）・読みりん（よみりん、読みリン、よみリン）・やりりん（やりリン）・探しりん（さがしりん、探しリン、さがしリン）

調査する上で、「エセ方言」の使用と認める条件は、①当該方言の伝統的な語形と同様の意味合いで使用されているもの、②それを書いた人の所在地が書かれているものまたは追跡できるものの、二点とした。

コーパスでの調査については、国語研日本語ウェブコーパス（NWJC）及び現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）の文字列検索で、Web検索と同様の調査語を用いて調査を行った。

4. 調査結果

4.1 地方会議録

調査結果は以下のとおりである。

- ・田原市議会会議録検索システム（平成15年～令和元年までのデータ）（調査日 2020年 7月11日）
(<https://ssp.kaigiroku.net/tenant/tahara/SpTop.html>)

全項目 該当 0 件

- ・豊橋市議会会議録検索システム（平成 7 年～令和 2 年までのデータ）（調査日 2020年 8 月 5 日）
(<https://ssp.kaigiroku.net/tenant/toyohashi/SpTop.html>)

「りん」 該当 3 件（うち「動詞（語幹「り」）＋ん」 1 件「一段活用・サ変・カ変動詞＋りん」 2 件）

例：「私も宣伝用のリーフレットとして見ました「渥美で貝、食べりん。」という、これは絵もよかったですけれども、（略）」（平成21年 6 月 定例会06月10日－03号 伊藤篤哉議員）

「「おばあさん、元気でやっているかのん」と、「おじいさん亡くなって寂しいかもしれんけど、頑張りんよ」と、「何かあったら地域の人にまた相談してのん」とか、こうやって訪問できた。」

（平成18年11月 行財政改革調査特別委員会 11月21日－01号 伊藤秀昭議員）

- ・岡崎市議会会議録検索システム（昭和55年～令和 2 年までのデータ）（調査日 2020年10月 6, 7 日）
(<https://ssp.kaigiroku.net/tenant/okazaki/SpTop.html>)

「りん」 該当 2 件（うち「動詞（語幹「り」）＋ん」 0 件「一段活用・サ変・カ変動詞＋りん」 2 件）

ことし 2 月15日付の新聞に「愛知県民野菜たべりん」という見出しが掲載されていました。

（平成27年 6 月 定例会06月04日－10号）

結果より市議会においては「エセ方言」の使用が見られない上に、当該方言の使用が極めて少ないことがわかる。

4.2 アンケート

4.2.1 選択式設問の結果

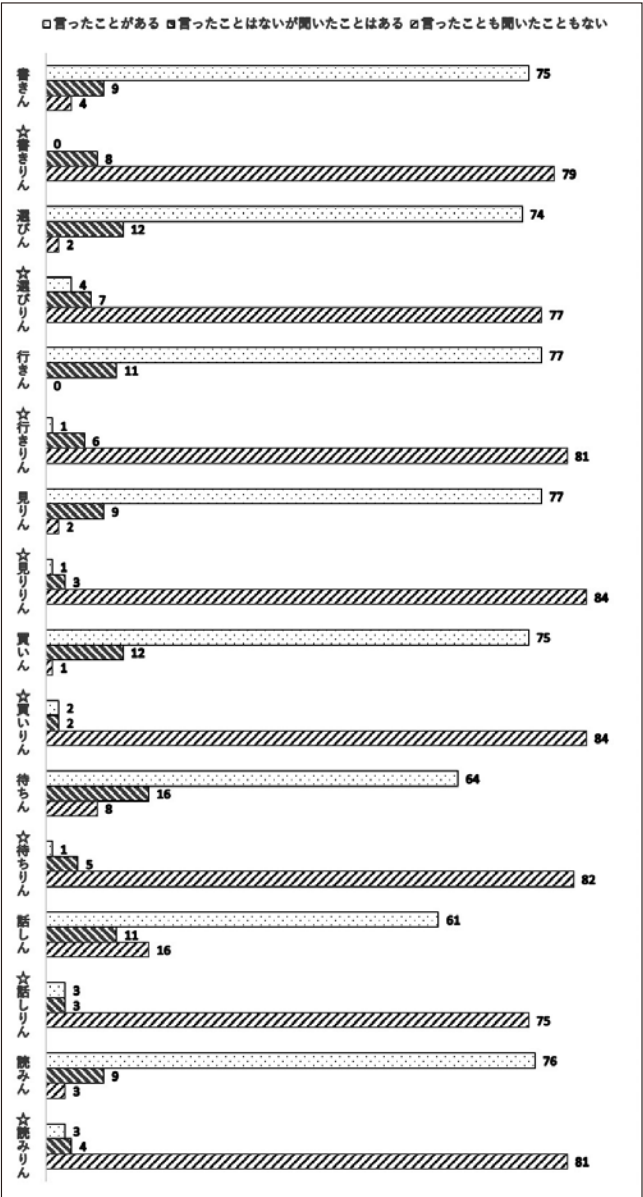


図1：当該方言・「エセ方言」（星印）の使用状況

なお、「書きりん」については筆者が設問編集中に回答があり無回答が生じてしまったため、「話しりん」については回答受付期間中に回答者からの指摘により設問の不備が判明したため、有効回答者数とずれがある。

この結果より、「エセ方言」の使用は見られるものの、当該方言ネイティブの間では伝統的な語形が守られている様子も伺える。

また上記グラフの「言ったことがある」「言ったことはないが聞いたことはある」と答えた人の年齢別の結果については以下の通りである。

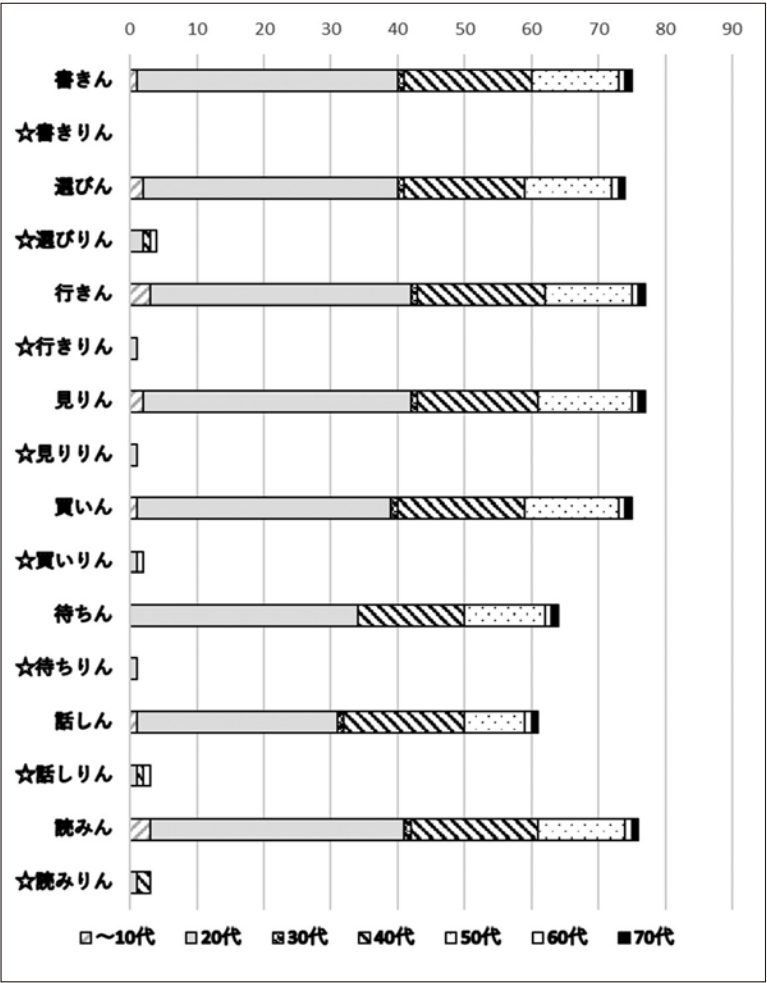


図2：当該方言・「エセ方言」（星印）の年齢別「言ったことがある」回答者

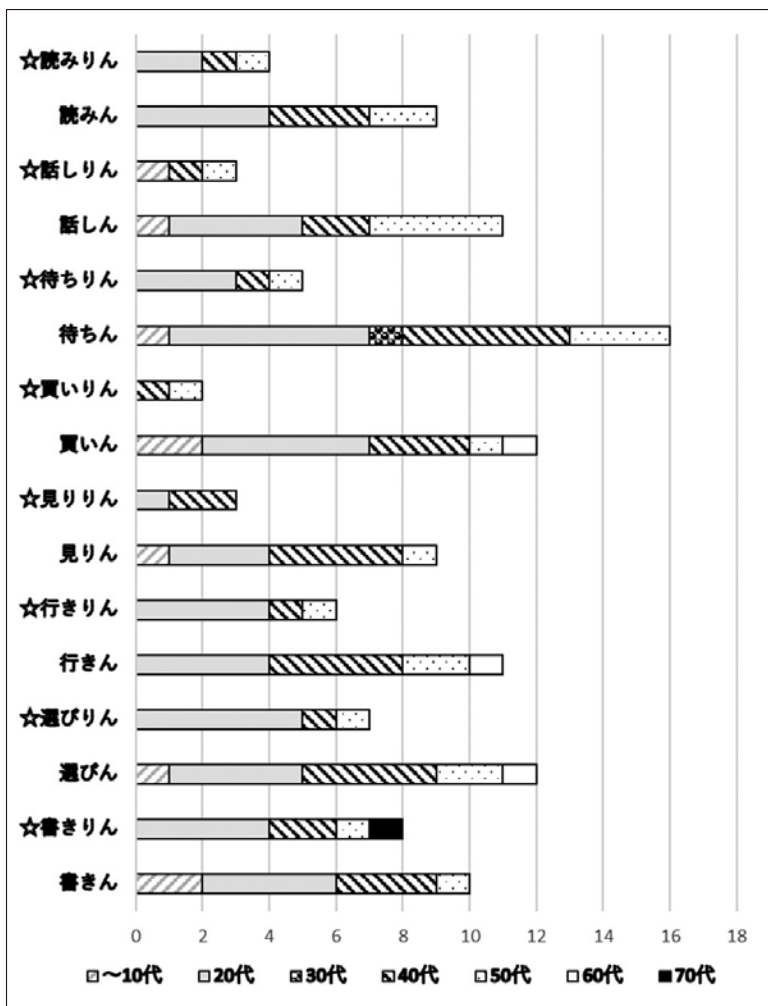


図3：当該方言・「エセ方言」(星印)の年齢別「言ったことはないが聞いたことがある」回答者数

図2, 3より、「エセ方言」を使用する年齢はいずれかの年齢層に限定はされていない様子が伺える。

4.2.2 記述回答箇所の結果

記述回答も多くあったため以下にその一部を記述する。記述回答箇所の設問内容は以下の通りである。

9) ここまでの質問で出た単語に似たもので、自分が言ったことがあるものを教えてください

い。

- 10) ここまでの質問で出た単語に似たもので、自分が言ったことはないが聞いたことはあるものを教えてください。その際、それを言っていた人がどういった人物だったか（例：友人、親、自身の祖父母、近所の人等）も、差し支えなければ教えてください。

- 11) その他ご意見・ご感想あれば教えてください。

なお、○は筆者が回答をまとめたもので、※は有効回答以外の回答者の記述回答である。

9) に対する回答

○補助動詞+りん／i ん

待ったりん（待って+おり+ん）・だまったりん（だまって+おり+ん）・やってみりん・～してみりん・見てみる・行ってみりん・話してみりん・食べてみる・行っこりん※

○使用する上での意味に関して

・これをやれば（実行すれば）？→これやりん

・来てみなよ（提案）→来りん

○筆者自身にはあまり馴染みがないもの

話しとみるりん・書いとみるりん・おいでん・せりん

表：10)（別紙参照）に対する回答（抜粋）

	聞いたことがある語	回答者との関係
1	せりん	母
2	お行きん	親
3※	おせりん	祖母
4※	およしん	祖母（3と同回答者）
5	およしん	義母
6※	（家に）あがりん	夫の両親、兄嫁さん
7※	（食べ物）（どうぞ）おあがりん	夫の両親

11) に対する回答

○年代差について

・来りんの使用は家族の中でも回答者（20代）のみ。回答者の友人は使っている。

・回答者の子供達（20代）→来りん 回答者含む同年代の人（50代）→おいでん

○設問にあった「エセ方言」に対する違和感

・一般に「りん」と呼ばれる方言を使用する際、[活用語尾の子音+i ん]という形を用いる（例：「話す」…『活用語尾「す」の子音s+i ん』で「話しん」）

⇒[用言の連用形+りん]という形が出てきたが、このような形を聞いたことは全くない

・書きりん、読みりん等は聞いたことがないが、どの位の年代の方が使われているのか

○その他

・（他地域から嫁いできたが当該方言を使うようになった理由として）他のこどもに話しかける

とき等に、伝わりやすい、親しみやすい※

4.3 Web検索

結果は以下の通りである。

・書きりん

(検索日時2020年11月29日18時44分 検索結果約136件 2件該当)

「…三河の「じゃん(いいじゃん) だら(うまいだら) りん(見りん, 食べりん, 書きりん)」は、検索したところ岡崎調査データでは出現しなかった。」(<https://core.ac.uk/download/pdf/234724362.pdf>) (井上他 (2012))

「お店のおばちゃん「マキスポーツも書きりん」の一言でテルさんも。」(<http://dg-45rpm.jugem.jp/?eid=8>) ドーナツと魔法と針 2018年11月16日

・行きりん (検索日時2020年11月29日18時48分 検索結果約236件 1件該当)

「最近三河弁の～りんの口癖が抜けないです。プームなんでしょうか。そうしりん、食べりん、やりりんと言ってます。先日35歳になりました。結婚した方がいいんだろうかと35の朝から軽く悩みましたが、どっちでもいいで突き進みりん。信じた道を行きりん。と気づきました。」
えとせとら 2018年8月9日

上述の「書きりん」で該当した文章については、一例目が執筆者の出身地から方言非ネイティブの記述、二例目が執筆者のプロフィール(静岡県西部)及び文脈(「日常的に三河弁使用」という記述)から方言ネイティブの記述であり、「行きりん」で該当した文については執筆者のプロフィール(瀬戸市という記述有)及び文脈(「最近三河弁の～りんの口癖が抜けない」という記述)から方言非ネイティブの記述と考えられる。

4.4 コーパス

調査の結果、当該方言及び「エセ方言」はなかった。(調査日時 NWJC: 2020年12月8日9時27分～10時22分 BCCWJ: 2020年12月8日11時07分～11時20分)

5. 考察とまとめ

市議会会議録における当該方言の出現件数はそもそも極めて少なく出現例も引用のみであった。このようになった理由としては以下の点が考えられる。

- ・議会において使われる言葉ではない
- ・議会において共通語を話そうという意識が強い
- ・木村他(2012)から伺えるように、読みやすさという観点から方言に修正が入り共通語の文章にされている可能性がある

アンケートに関しては、年齢に関係なく「エセ方言」の使用は見られ、「言ったことはないが

聞いたことはある」という回答も見られた。自身の予測としては、通勤・通学などで当該地域外への移動が多くなり、「エセ方言」に触れる機会も多くなると想定される若年層が多く使っていて、年代が上がれば上がるほど使わなくなると考えていたが、その予想とは異なる結果となった。40代・50代にも「エセ方言」の使用や「言ったことはないが聞いたことはある」の回答が見られたことについて、アンケートの回答者に筆者と同年代の回答者の親世代の回答者が多いことから、子どもやその友人で伝統的な方言文法から逸脱した語形を使っているのを聞き、親世代へと年代を遡及して広まっている可能性も考えられる。

「エセ方言」が使用される背景に関しては、Web検索にて当該地域外の人が、りんを接尾語のように使用し、五段動詞にも「りん」をつけるという、「エセ方言」的な使い方をしているのが見られ、当該地域の方言ネイティブがそのような使い方をしている例もわずかながら見られたことから、当該地域外から「エセ方言」が流入している可能性は示唆される。この点に関して、井上他（2012）においても「書きりん」という当該方言のネイティブが使わない形があたかも正用かのように扱われている。三河地域の一つである岡崎市は、国立国語研究所の継続的な方言等の使用状況の調査が行われている。それにも関わらず、このような当該方言のネイティブの運用に一致しない記述があるというのは、当該方言のネイティブの一人として危機感を抱かざるを得ない。

その一方で、有効回答全体の結果を見ると、「エセ方言」を使っている人はいるものの、全ての「エセ方言」において、「言ったことも聞いたこともない」と回答した人も多くいる。さらにアンケートの記述回答からも、伝統的な方言文法から逸脱した語形の語に回答者のうち複数名が違和感を抱いたことも伺える。これらのことから、当該地域において、伝統的な方言の形が比較的守られていることもわかった。そのため当該地域においては、調査時点において、筆者が想定していたほどには伝統的な方言文法の揺らぎが生じていないと考えられる。

アンケートの記述回答では上述したことの他に、年代差のある表現（「来りん」と「おいでん」）や、「おせりん」「およしん」「お行きん」「おいでん」という、<りん／いん>の一つ前の形である「お+動詞連用形+ん」が実際に使用されていることを確認することができた。

【参考文献】

- 愛知県教育委員会（1989）『愛知県の方言』文化財図書刊行会
- 朝日祥之（2018）「標準語のようで標準語ではない愛知県のことば」『2017年度ワークショップ報告書 みんなの知らない方言の世界』愛知大学人文社会学研究所
- 井上 史雄, 金 順任, 松田 謙次郎（2012）「岡崎100年間の「ていただく」増加傾向：受惠表現にみる敬語の民主化」『国立国語研究所論集』国立国語研究所
- 荻野綱男（2001）「山梨方言の変化に関する社会言語学的研究」『平成9年度～平成12年度科学研究費補助金（基礎研究（C）（2））研究成果報告書』東京都立大学人文学部
- 江端義夫（1974）「愛知県地方の方言の分脈とその系脈」井上史雄・篠崎晃一・小林隆・大西拓一郎 編『日本列島方言叢書』ゆまに書房

- (1981)「方言敬語体系の方言地理学的考察—愛知県地方域方言のばあい—」井上史雄・篠一・小林隆・大西拓一郎 編『日本列島方言叢書』ゆまに書房
- (2013)『愛知県のことば』明治書院
- 木村泰知・洪木英潔・高丸圭一・乙武北斗・森辰徳 (2012)「地方議会会議録コーパスの構築とその利用」『人工知能学会全国大会論文集』26, 人工知能学会
- 芥子川律治 (1983)「愛知県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐野亮一編『講座方言学 6 - 中部地方の一』国書刊行会
- 国立国語研究所 (1957)『敬語と敬語意識』国立国語研究所
- 小林卓爾 (2014)『みんなの日本語 初級 I 第2版 本冊』スリーエーネットワーク
- (2014)『みんなの日本語 初級 I 第2版 本冊』スリーエーネットワーク
- 田中ゆかり (2011)『「方言コスプレ」の時代—ニセ関西弁から龍馬語まで—』岩波書店
- 辻加代子 (2012)「岡崎市方言敬語の伝統形式および新形式ミエルの消長——継続サンプルの分析より——」『国立国語研究所論集』国立国語研究所
- 豊橋市立商業学校 (1932)『郷土の方言』豊橋市立商業学校
- 中條 修 (1983)「静岡県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐野亮一編『講座方言学 6 - 中部地方の一』国書刊行会
- 平塚雄亮他 (2012)「若年層の命令形の使用範囲：栗東市方言・福岡市方言・湖西市方言の対照から」『阪大社会言語学研究ノート』第10号 大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室
- 堀井令以知 (1965)「等語線の問題」『愛知大学総合郷土研究所紀要』第10輯、愛知大学
- 又平恵美子 (1997)「三河方言の文末形式の記述的研究—1—」『筑波日本語研究』第二号 筑波大学文芸・言語研究科日本語学研究室
- 三宅俊浩 (2019)「近世後期尾張周辺方言におけるう抜き言葉の成立」『日本語の研究』第15巻 3号 日本語学会
- 森勇太 (2017)「静岡県湖西市方言」『全国方言文法辞典資料集 (3) 活用体系 (2)』方言文法研究会
- 山田敏弘 (2007a) <東海>「～りん」『地方別 方言語源辞典』東京堂出版
- 山田敏弘 (2007b)「岐阜・愛知の若年層方言について 1—遊びのことば・学校のことば・オノマトペ—」『岐阜大学教育学部研究報告 人文科学』第56巻 第1号 岐阜大学教育学部
- 山田敏弘 (2008)「岐阜・愛知の若年層方言について 2—文法的な形式と社会的な関係を表す表現—」『岐阜大学教育学部研究報告 人文科学』第56巻 第2号 岐阜大学教育学部
- 山田敏弘 (2017)「愛知県新城市作手方言」『全国方言文法辞典資料集 (3) 活用体系 (2)』方言文法研究会
- 吉川利明・山口幸洋 (1972)『豊橋地方の方言』、豊橋文化協会
- 吉川利明 (1969)『豊橋 (東三河) 地方の方言』吉川利明
- 吉川利明 (1969)『豊橋地方の方言 第二分冊』吉川利明
- 吉川利明 (2017)『豊橋の方言210話』豊川堂

吉田健二他（2018）「東海地域における方言使用と印象」『愛知淑徳大学国語国文』（41）愛知淑徳大学国文学会

吉田健二他（2020）「東海地域における言語実態調査（2）」『愛知淑徳大学国語国文』（43）愛知淑徳大学国文学会

【閲覧したウェブサイト】

蒲郡市—MIKAWAdeじゃんだらりん（閲覧日2019年12月4日）

<http://www.city.gamagori.lg.jp/unit/kankoshoko/mikawadezyandararin.html>

田原市—広報たはら平成20年9月15日（閲覧日2019年12月2日）

http://www.city.tahara.aichi.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/000/259/tahara_080915-09.pdf

日本語教育語彙表 ver1.0（閲覧日2019年11月8日）

<http://jhlee.sakura.ne.jp/JEV.html>

田原市議会会議録検索システム（閲覧日2020年4月17日）

<https://ssp.kaigiroku.net/tenant/tahara/SpTop.html>

豊橋市議会会議録検索システム（閲覧日2020年4月17日）

<https://ssp.kaigiroku.net/tenant/toyohashi/SpTop.html>

岡崎市議会会議録検索（閲覧日2020年10月6,7日）

<https://ssp.kaigiroku.net/tenant/okazaki/SpTop.html>

国語研日本語ウェブコーパス（NWJC） 梵天版（閲覧日2020年12月8日）

https://bonten.ninjal.ac.jp/nwjc/string_search?ticket=ST-105330-aKfQzaQ002nr1bPs0S7C-chunagon.ninjal.ac.jp

現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）（閲覧日2020年12月8日）

<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search>

えとせとら（閲覧日2020年12月5日）

<http://etosetorarara.blogspot.com/2018/08/blog-post.html>

ドーナツと魔法と針（閲覧日2020年12月5日）

<http://dg-45rpm.jugem.jp/?eid=8>



図 4：西三河地域の概要—愛知県 (<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/nishimikawa/gaiyo.html>) より

【謝辞】

本稿は、令和 2 年度東京都立大学 都市教養学部卒業論文として提出した内容を元にしています。卒業論文の作成及び学術論文としての投稿に際してご指導くださいました浅川哲也先生に心より感謝申し上げます。

(こばやし・そのか 東京都立大学 都市教養学部生)